Ⅲ－２　ゾーン別の基本目標

(1) ゾーニング

本県のアメニティ像である「ふれあい　発見　未来におくる美しい福井――誇りのもてる豊かな郷土　郷土を愛する豊かなこころ」は、県内共通のアメニティのめざすべき姿です。

しかしながら、本県には、環境特性の異なるさまざまな地域があります。この基本目標をより効果的に実現していくため、それぞれの地域の人々が、それぞれの地域の性格、機能、構造などの環境特性を踏まえ、その特性に応じた目標、施策をたてる必要があります。

本県は、周囲を石川、岐阜、滋賀、京都との県境を構成する山並と、越前海岸、若狭湾を形づくる日本海に囲まれています。このような山や海に囲まれた県土は、本県の歴史的な国造りの背景による、嶺北と嶺南の２つの地方、また広域行政圏による福井坂井、奥越、丹南、嶺南の４つの地域に区分されるのが一般的です。

しかしながら、このような地方、広域圏による区分は、アメニティの構成要素である自然、歴史文化、社会生活の総合的視点からみると、必ずしも明確な環境特性により区分されたものとは言えず、いずれの地方、広域圏にも、水や緑などの豊かで多彩な自然、情緒あふれた歴史文化を持ち、また核となる都市があります。

また、本プランのアメニティづくりの基本的考え方で示したように、アメニティづくりは、地域の住民が地域らしさをいかし、地域の望ましい暮らしを考えながら、一致協力して守り育てつくっていくことに意義があります。したがって、本プランではあえて面的で即地的な地域の類型化は行わず、地域の住民の自由な発想のもとに、地域の環境特性にあわせて、アメニティの目標や施策を組み合わせ展開できるよう、どの地域においても、選択できるような概念的なゾーニングとします。

以上を踏まえて、本県のゾーニングは

- 県民の生活、行動の背景となるゾーン
  ……「**山**」、「**水**」、「**歴史**」
- 県民の生活、行動の場となるゾーン
  ……「**まち**」、「**むら**」

の５つのゾーンで設定します。

山のゾーン――― 県境、市町村境などを構成する山と人々の身近な生活の場にある小山、小山群が対象です。山の緑、山の水、山の風景などは貴重なアメニティ資源です。いかに守り育て、いかしていくかがテーマとなります。

水のゾーン――― 県土に面する海、県土をめぐる川、湖が対象です。水辺、水の流れ、水の風景などは貴重なアメニティ資源です。いかに守り育て、いかしていくかがテーマとなります。

歴史のゾーン――― 県内の歴史的環境の豊かな地区、人々の身近な生活の場にある歴史性を感じさせるものが対象です。歴史的町並み、伝統行事などは貴重なアメニティ資源です。いかに守り育て、いかしていくかがテーマとなります。

まちのゾーン――― 都市的機能の集積が高く、人口の多い地域が対象です。経済、文化、産業などにおいて、周辺地域の中心としての役割を担っている地域です。いかに、そのまちならではの住み心地の良さをつくっていくかがテーマとなります。

むらのゾーン――― 農村、山村、漁村が対象となります。地域の生活が生産活動と密接な関係にあり、また周辺の自然や近郊のまちの変化に影響を受けやすい地域です。保全と開発の調和を図り、いかにそのむらならではの住み心地の良さをつくっていくかがテーマとなります。